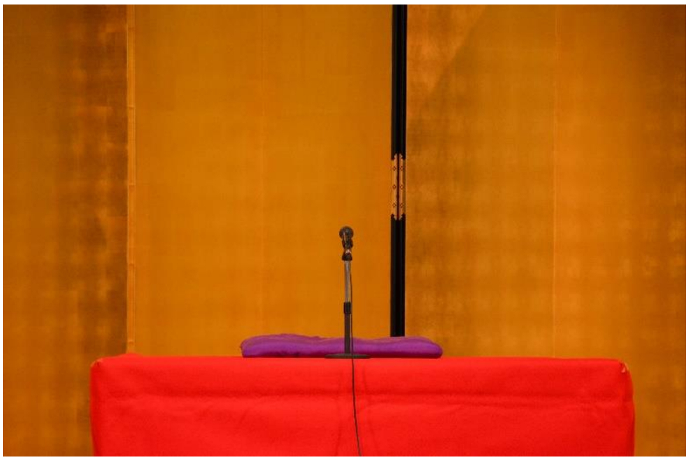
令和 3 年度　目的事業報告書

1．事業名	落語とビジュアルアートのアニュアーレ＜北区未来噺を絵本に起す＞
2．事業内容	上方落語協会の噺家 8 名が披露する三題噺を、北区にある大阪デザイナー専門学校の学生が鑑賞し、そこから着想を得て「一枚の絵」を製作し、展示会を行うプロジェクトを実施しました。 10 月 17 日に大淀コミュニティセンターで開催した落語会には様々な年代の方に来場いただき、半分は絵を学ぶ若い学生たちでした。その後 1 月 22 日に大阪デザイナー専門学校で実施された「一枚の絵」審査会では、7名の審査員により 118 作品の応募の中から最優秀・優秀・入選作品10点が選ばれ、2 月 19 日に天満天神繁盛亭で開催されたイベントで入賞作品の展示・表彰式を行いました。 3 月 30 日から 3 月 31 日には「一枚の絵」原画展を実施し、全 118 作品を大淀コミュニティセンターで展示しました。原画展当日は 10 月に実施された落語会の様子も同時放映し、センターを利用している方や区民の方々が自由に落語や学生の作品を鑑賞できる場としました。
3．実施日 実施場所	○令和 3 年 10 月 17 日(日) 「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」 （実施場所：大淀コミュニティセンター　ホール） ○令和 4 年 1 月 22 日(土) 「一枚の絵」審査会 （実施場所：大阪デザイナー専門学校） ○令和 4 年 2 月 19 日(土) 「一枚の絵」表彰式 （実施場所：天満天神繁盛亭） ○令和 4 年 3 月 30 日(水)～3 月 31 日(木) 「一枚の絵」原画展 （実施場所：大淀コミュニティセンター　ホール）
4．来場人数	延べ約 150 名
5．協力	・（公社）上方落語協会・会長　笑福亭仁智氏 噺家：桂米輝/桂三幸/露の棗/桂三実/桂小鯛/笑福亭智丸/笑福亭笑利/桂あおば ・大阪デザイナー専門学校　学生：30名 ・偕成社　販売部取締役特販部長　西川稔氏 ・大阪大学大学院　工学研究科環境エネルギー工学専攻准教授/ NPO 法人もうひとつの旅クラブ理事　福田知弘氏 ・SPACESPACE 建築家/ツキイチ屋台女将　岸上純子氏 ・都心の田舎のユーチューバー　平井裕三氏
6.次年度の 展望	今年度は、大阪デザイナー専門学校の学生のみの出展でしたが、来年度以降は、アートや美術を学ぶ北区を中心とした学生（専門学校・大学・高校・中学校）にも参加してもらいます。また、落語から得られるインスピレーションから「一枚の絵」を描き「絵本化への夢」を追いかけながら、「将来の自分の夢」への第一歩の足掛けとなるプロジェクトとして、『落語』と『ビジュアルアート』をマッチングさせた新たな試みを広めると共に、よりいっそう盛り上げていきます。 周知方法として、You Tube 配信（期間限定）を実施し告知を行います。 年度末には、原画展を実施し、落語からのインスピレーションから生まれた「一枚の絵」を地域の皆様に観覧いただきます。

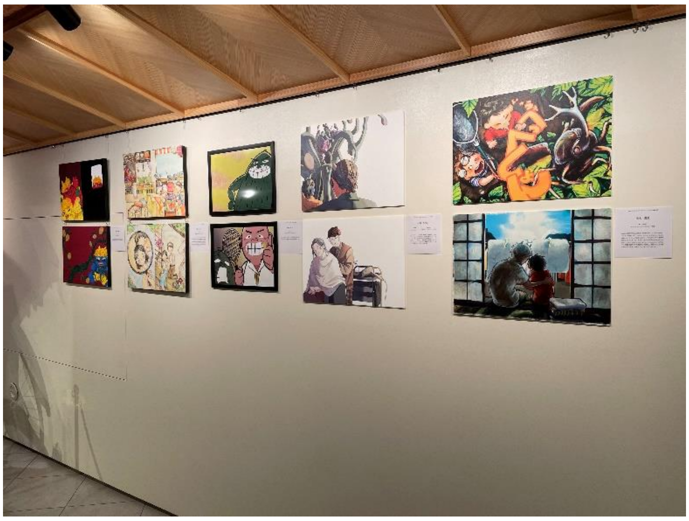
添付資料① 当日写真

＜「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」（10 月 17 日@大淀コミュニティセンター＞



＜「一枚の絵」審査会（1月 22 日@大阪デザイナー専門学校）＞

＜「一枚の絵」表彰式（2 月 19 日＠天満天神繁盛亭）＞



＜「一枚の絵」原画展（3 月 30 日～3 月 31 日＠大淀コミュニティセンター）＞

添付資料②　チラシ
＜「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」（10 月 17 日＠大淀コミュニティセンター＞
・表

·裏

「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」によせて
上方落語協会 会長　笑福亭仁智

皆様へ

私の代表的な持ちネタのひとつ「源太と兄貴」のネタおろしは平成12年のことで、もうずいぶん昔のことになります。この噺は120ほどあるわたしの創作落語中、「いつも新しい笑わせ方」を目指す筆頭格の噺と思っています。

「源太と兄貴」は、その道の「弟分とアニキ」の人間関係がベースで、頼り頼られの関係が背景にあります。"衰退する稼業"の道すがらの情景は「その道の稼ぎ方」が、すでに頼りにならないことの連続。時代変化についていけない縦社会の中で、精一杯生きようとする兄貴と弟分の、滑稽描写のリアルな物語です。この物語性がここ20年来の社会と通底していると感じています。

インターネットやスマホが社会生活の基盤を担うようになり、と、そこに新型コロナが入り込んできて社会の激変に拍車がかかります。日常風景では考えてもみなかった「宅配システム」が目の前に突然現れました。ところが、これらは「突然」ではなかったのです。この20年来の社会システムの変化を思い起こすと明らかです。

旅は「ネット予約」になり、食べ歩きも「スマホ検索」、多種多様な情報交換や売買も「ネット上」。それらが約10年前には定着しています。さらに、新型コロナで会議なども一気呵成にリモート化·非接触型へと走りました。

そんなことから「源太と兄貴」は、「コロナ後の新しい生活スタイル」への適応性と同じであると感じるこの頃でした。伝統的な縦社会が残る落語界でも「公演」の多様性の模索を考えるタイミングかなと、私も漠然と思っておりました。

そんな中、特定の若手落語家の一団がいち早く動き、時代変化への対応を「リモート落語」という形で、素早く進めてくれました。『日頃の気持ちの備え』があったからにほかなりません。もちろん、落語は、目の前の「生のお客さん」の反応を見ながら、ネタや言い回し、間を変えて噺をすすめ、それにまたお客さんが反応する。そんな時間の共有が真骨頂です。しかし「リモート落語」の工夫は、将来「古典落語」、「新作落語」に、『配信落語』が加わる可能性を秘めているように思います。

私自身もアフターコロナは「新しいマッチング」にある！　と、閃きました。そんな心境から「若手落語家⇔ビジュアルアートを学ぶ若者⇔絵本の世界」の別ジャンルをつなぎ、新しい試みに挑みます。

コンセプトづくりでは、大淀コミュニティセンター·北区民センターの面々、北区の歴史あるデザイン専門学校、有名な絵本出版社から知見を得ました。これら全般を結んでくれたのは古くからの友人です。それらはまさに温故知新！…「コミュニティのつながり」そのものでした。

「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」から「新しい創作」を生み出し、この「気」を若者に捧げたいと考えています。これまでとは異質の緊張があり不思議な気分ですが、これを読んだ皆様方にはその「立会人(アニュアーレを見に来てくれる人)」になっていただきたく存じます。

さあ、ご一緒にいかがですか。

※アニュアーレとは「年に1回」を意味するイタリア語

＜「一枚の絵」表彰式（2 月 19 日@天満天神繁盛亭）＞

＜「一枚の絵」原画展（3 月 30 日～3 月 31 日＠大淀コミュニティセンター）＞

落語とビジュアルアートのアニュアーレ

無料

『一枚の絵』原画展

2022 年 3 月 30 日（水）～ 3 月 31 日（木）
13：00 ～ 20：00　　9：30 ～ 18：00

このお題からどんな絵が？

日経平均・大坂なおみ・アイスクリーム
三三七拍子・サービス・定年
富士山・花火・へそ
鉄筋コンクリート・カブトムシ・洗濯
赤信号・バイト・釜めし
英会話・結婚・テレビショッピング
リモコン・モータープール・離婚
天気予報・グルコサミン・オランダ

学校法人大阪デザイナー専門学校の学生たち３０名が、
落語家８名の三題噺を聞き、それを**デザイン化した絵を一堂に展示!!**
将来あなたが目にする『絵本』になるかも…？そんな原画を御覧ください。

大淀コミュニティセンター・１階　ホール

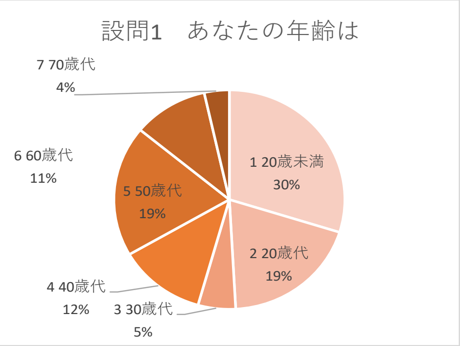
■開館時間：9：30 ～ 21：30
■住所：大阪市北区本庄東 3 丁目 8 番 2 号
■TEL：06-6372-0213
■アクセス
・地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋筋六丁目」下車 徒歩 8 分
・市バス 34 系統（守口車庫前行き）「天神橋八丁目」下車 徒歩 2 分
■お車でご来館
・駐車場　収容台数 10 台
※先着順のため、公共交通機関をご利用ください。
満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

主催：一般財団法人 大阪市コミュニティ協会　北区支部協議会

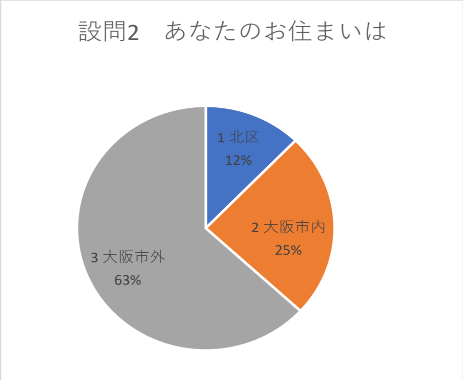
添付資料③　「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」（10 月 17 日）アンケート集計結果

2021/10/17

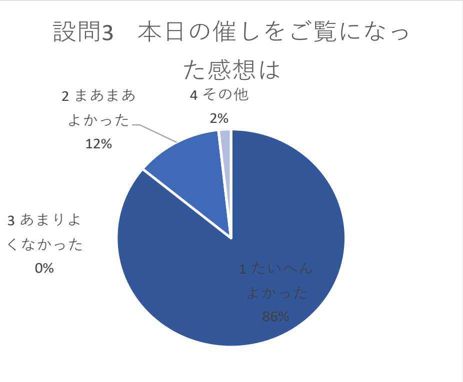
	あなたの年齢は			
	通し番号	選択肢	回答数	割合
1	1	20歳未満	17	29.8%
	2	20歳代	11	19.3%
	3	30歳代	3	5.3%
	4	40歳代	7	12.3%
	5	50歳代	11	19.3%
	6	60歳代	6	10.5%
	7	70歳代	2	3.5%
	8	80歳代以上	0	0.0%
		合計	57	100.0%



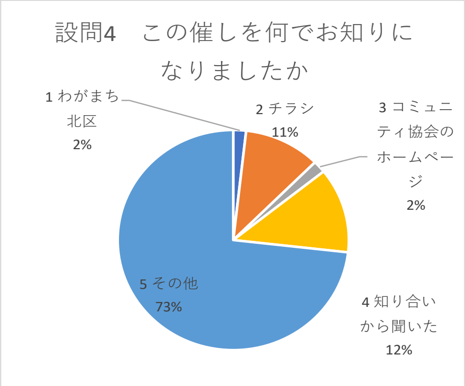
	あなたのお住まいは			
	通し番号	選択肢	回答数	割合
2	1	北区	7	12.3%
	2	大阪市内	14	24.6%
	3	大阪市外	36	63.2%
		合計	57	100.0%



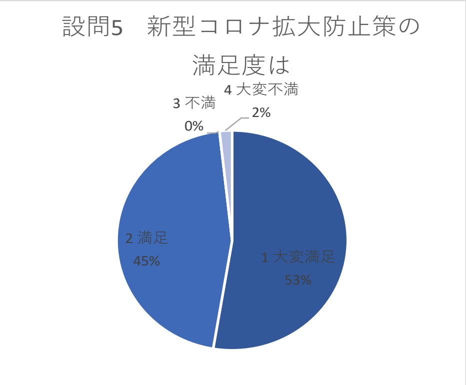
	本日の催しをご覧になった感想は			
	通し番号	選択肢	回答数	割合
3	1	たいへんよかった	49	86.0%
	2	まあまあよかった	7	12.3%
	3	あまりよくなかった	0	0.0%
	4	その他	1	1.8%
		合計	57	100.0%



	この催しを何でお知りになりましたか			
	通し番号	選択肢	回答数	割合
4	1	わがまち北区	1	1.8%
	2	チラシ	6	10.7%
	3	コミュニティ協会のホームページ	1	1.8%
	4	知り合いから聞いた	7	12.5%
	5	その他	41	73.2%
		合計	56	100.0%



	新型コロナウイルス感染拡大防止策についての満足度はいかがでしたか			
	通し番号	選択肢	回答数	割合
5	1	大変満足	30	52.6%
	2	満足	26	45.6%
	3	不満	0	0.0%
	4	大変不満	1	1.8%
		合計	57	100.0%



添付資料④ 「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」（10 月 17 日）アンケートご意見欄

- お題が入っているか気になってしまう。
- 係の方が親切で気分がよかったです。
- 16:00 終了を守ってほしかった。
- とても佳い企画だと思いました。これからも毎年開催してくださると嬉しく思います。
- 大変楽しませてもらいました。この企画、5 年間ずっと追いかけていきたいと思いました。
- 会場の雰囲気もよくて楽しかったです！
- 米輝さんのキュウリのキャラがインパクト強すぎて夢に出そうです。それぞれの持ち味が出ていて楽しかったです。
- 一人の持ち時間はもう少し短いほうが良い。
- 8 人の方の個性が出ていて、本当に楽しい時間でした。
- 落語をライブで見たのは初でした。とても楽しかったです！
- 2 月がとても楽しみです。ビジュアルアートもどんなものになるかワクワクします！
- この企画、続けてほしいです。
- 面白かったです。コロナ対策、様々な関係者とのやり取り、お疲れ様でした。受賞の際、BGM があったら良かったかも。次回も楽しみにしています。
- 噺の時間の上限はたしかにあったほうがいいなと思いました。初の試み、楽しかったです！
- 想像以上に楽しく、面白く、すばらしかったです。演者さんの大熱演、大満足しました。これからのますますのご発展期待しております。来てよかったです。
- また次回楽しみにしています。おっしゃっていたように 10 分以内で…（笑）

1.事業名	キタのまちのニュースレター＜北区ふるさと・地域間交流＞
2.事業内容	商業施設の更新やホテル増などによる、まちの様変わりと「まちの記憶」に着眼し、特にマンション居住者が9割を超える北区の現状や今後も増加する都心居住者らに「新しいコミュニティ」へのヒントになり得るような「たのしみ」や「行動をともにする地区生活者の話」などを中心に構成したニュースレターを発行しました。各号では地域コミュニティに関する様々な分野の専門家に執筆を依頼し、北区の魅力を多面的に発信しました。また、北区内ばかりではなく、北区に立地する道県事務所など広域交流が可能な取材先も取り込みました。 さらに、新たにコミュニティに参入したいと考えている方が地域の情報を得られるように多くの方に届けるキタの情報を発信しました。
3.発行	No.1：令和 3 年 7 月号 No.2：令和 3 年秋・冬号 No.3：令和 4 年冬・春号
4.発行部数	各 30,000 部
5.編集・発行	北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
6.次年度の展望	マンション居住者や管理組合（自治会）などのコーナーも設け、今後も増加する都心居住者の皆様の「新しいコミュニティ」へのヒントになる「楽しみ」や「行動をともにする地区生活者の話」などを中心に構成したニュースレターを発行します。 さらには、北区民センターや大淀コミュニティセンターの事業などの情報を発信・周知するとともに、地域コミュニティに関する様々な分野の方やご利用頂いた地域団体に出稿協力を依頼し、北区に寄り添い北区の魅力を発信し続けます。 そして、地域住民の皆様に北区民センターや大淀コミュニティセンターが「気軽に」・「いつでも」・「誰とでも」・「地域コミュニティの場」として利用頂けるようの利用促進を図ります。

添付資料⑤
＜キタのまちのニュースレター　No.1＞

No.1
2021/7/20

キタのまちのニュースレター

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会■7・10・1・4 各月下旬発行
■北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町 2-1-27　kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp　■大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東 3-8-2　oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

ツキイチ屋台から「見つめあえる幸せ」

私の生業は、建築の意匠設計。いわゆる、あらゆる建物のデザインの仕事です。

2010 年に独立し、以前は天六、今は中津の中津商店街の中に自身の設計事務所兼自宅があります。仕事のパートナーでもある主人と小学生の息子と 3 人「職住一体」の生活をしています。

そして、このコラムのタイトルにもある『ツキイチ屋台』を、事務所の前で月に 1 度、第 2 土曜日の 13 時～17 時で仕切る女将でもあります。

設計事務所と聞いてあまりその仕事や働き方にピンとこない人も多いと思いますが、その仕事のほとんどは、クライアントに土地と建てたい建物の用途があって、それを依頼され、設計と現場監理することです。世の中にはたくさんの設計事務所がありますが、そのほとんどがビルの一室にあり、普段その仕事ぶりが人目につくことがないのでピンと来なくて当たり前だと思います。

しかし建物は『マチやヒト』に密接に関係しているはずなのに、なぜその設計事務所をビルの一室に閉じこめてしまうのでしょう？ もっと『マチやヒト』を感じながら仕事がしたい！ 逆にそこに設計事務所があることでマチがちょっと楽しくなるような、そんな働き方がしたい！ そうすることで、きっと他の設計者とは違う視点で建築に関われるはず！ と思い、独立する際の場所探しのポイントは『まちに開いて仕事ができて、上に住んで楽しいところ』でした。なので、天六の時も今も「うちの事務所」は路面にあり、ガラス張りで外から丸見えです(笑) おかげで、前を通る近所の人と仕事をしながらでもガラス越しに挨拶できたり、子供たちが窓際にある模型を覗いて声をかけてくれたりします。

天六時代は事務所をマチに開くことから始めたのですが、ここ中津に魅かれて 5 年前に引っ越そうと思ったのは、ある仕事がきっかけで「自分自身がもっとマチに関わるプレイヤーになりたい！」と思ったからでした。そのきっかけの話はまたいつか書くとして、このコラムでは、中津での『職・住・遊』一体の暮らしを通して見えてくる、私が大好きな『マチとヒトとその周辺』について書き記し、みなさんと『まちなか暮らしの面白さ』を共有できればいいなと思っています。まずは一度中津へ足を運んでみてください！

■岸上 純子：建築家・ツキイチ屋台女将

『キタのまちのニュースレター』　発行にあたって

昨今のコロナ禍により「人と会うことが難しくなった」「外に出る機会が少なくなった」という方はたくさんいらっしゃるのではないでしょうか。人との関わり方や日々の生活が以前と変わりつつある今「新しい繋がりや趣味を見つけてみたい」という声も多く耳にします。

北区民センター・大淀コミュニティセンターはどなたでもご利用いただける会議室やホールの貸出を行っています。英会話・書道・太極拳・楽器練習・発表会…などなど、市内外問わずたくさんの方が様々なことを学んだり楽しんだりして、皆さまの交流の場として親しまれています。北区民センターは、新型コロナウィルスのワクチン接種会場となっているため、現時点では、来年 1 月末まで一般の方がご利用頂けない状態となっています。大淀コミュニティセンターは、土日祝問わず毎日開館しています。コロナ禍の今「地域の方々にとって身近な存在である両センターのことをもっと知って頂きたい！」「自分たちの住む北区のことをもっと知って頂きたい！」そんな思いから皆さまのお手元にお届けしています。

『ニュースレター』では、両センターの取り組みや、北区の魅力を紹介する記事を掲載する予定です。これを読んで頂いた皆さまが、自分たちの住む『キタのまち』をより深く知ることができるよう願っています。

令和3年7月20日発行

地域の魅力再発見 「北区を遠望してみると」

出典：https://maps.gsi.go.jp/ 地理院地図 電子国土 Web を加工して作成

大阪の地図を西が上になるよう回転してみると(右地図・参照)、北区は「鶴」のように見えます。縁起よし！中之島は頭から首、大阪駅やうめきたは背中、淀川沿いは翼、大川沿いはお腹。さらに、大阪環状線を京橋まで、都島通を野江内代あたりまで描くと、鶴の足となります。鉄道や道路は現代の足そのものですね。北区と隣の区との境は、淀川、大川、堂島川、土佐堀川がほとんど。川らしい柔らかな地形に囲まれているからこそ、生き物に見えたのでしょう。

形のみならず、まちは生き物であり、瞬時に変わる風景はまだしも、移り行く変化は気づきにくい。都会は複雑であり、よく観察する必要があります。ただし、好きなところからはじめる方が楽しいので、筆者のお気に入りを切り取ってみました。

▽淀川河川公園(西中島・十三野原地区)からの眺め / 都心の超高層ビル群を眺めつつ、緑と風は心地よく、鳥はさえずり、空は広い。人工と自然を味わえる(右写真・参照)。

▽お初天神 / にぎやかな通りを抜け都心のほっこり空間。昔に引き戻された感じ。夕方になれば提灯がともされ、焼鳥の匂い。まさにパワースポット。

▽中之島の物語 / 難波橋より東、「ばらぞの橋」で途切れる先は埋め立てで生まれ「剣先」まで続く。が、なぜか一体感は希薄。天満堀川との関係か、大川を分流するための工夫か、それとももっと別の理由なのか。

▽川崎橋 / 華奢な斜張橋。大川が南から西へとまさに向きを変えるところ。曲線の頂点からは、川をぐるりと見渡せ春は桜が視界を覆う。ふり返れば、大阪城。

▽梅田スカイビル空中庭園 / 2本の超高層ビルを連結させ、屋上を開放した展望台。淀川と大阪湾の風景。空港へ着陸態勢を整える旅客機。ビル群の向こうの大阪城。

人は五感の刺激により情報をキャッチしています。デジタル技術の発達やコロナ禍でも、「リアル」や「ライブ感」といった感受性は奪われたくないものです。そこで地域の魅力を再発見し、五感を刺激して、大好きな「どこか」を探り当てる。そんな「旅」にお誘いしたい。と、この連載をスタートします。

■福田 知弘：大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻准教授／NPO 法人もうひとつの旅クラブ 理事

―キタ歩き日本旅　大分県の巻―

日本47都道府県中、北区の「大阪駅前ビル」には、その（約）半数にもおよぶ道府県事務所が立地しています。それはまるで、ご近所から「旅」の趣です。そこで「キタ歩き日本旅」と題して各県をご紹介します。お楽しみください。

九州各県は沖縄・鹿児島・宮崎・熊本・佐賀・福岡・大分と 7 県すべての県事務所が、ここ「大阪駅前ビル」に立地しています。そこで、まずは九州からスタート。トップバッターは日本を代表する温泉県「おんせん県おおいた」の、大分県大阪事務所です。

大阪と大分は古くから航路で結ばれ特に「別府航路」は、日本の「近代観光」の先駆けです。船旅のご縁は昭和の時代、「大阪の作家」織田作之助の文学に現れ「戦前の昭和」に 3 回も長逗留したといわれています。ここからは取材の「聞き書き」です。

大分県は温泉だけではありません。「食」の豊かさも抜群です。例えば魚、豊後水道の恵は数多く「城下かれい」は江戸期からのブランド。現代の代表は「関あじ」「関さば」。育てる漁業でも「かぼすぶり」は絶品、貝類も豊富です。川では鮎やモクズガニ、エノハ(アマゴの地域名)も美味、魚だけでも書ききれません。陸では「おおいた和牛」の他、ブランド豚やブランド地鶏も多彩です。さらに、椎茸を含め、お野菜がどれも新鮮でみずみずしく美味…と(書ききれないのでブランド名は省略させていただきました)。

また、県内各地には磨崖仏(まがいぶつ)(大きな岩肌に彫られた仏様)などの文化遺産も豊富。他の文化的個性も各地様々なことから「知られざる旅の穴場」が数多いとのこと。さらに耳寄り情報をもらった。大分空港と大分市中心地に近い「西大分港」がホバークラフトで、僅か 25 分で結ばれ 2023 年度中にも実現の運びらしい。

令和3年7月20日発行

大分は「道の駅」も多種多様とのことだ。これに、焼酎であれ日本酒であれ「旨い酒」の「酒蔵」を絡めると、見事な「個人旅行」が楽しめる。例えば、ホバークラフトの着地に近い西大分駅（隣が大分駅）から日豊本線・豊肥本線・久大線など JR 九州を利用し、「地域の観光タクシー」で巡れば、ハンドルを気にせず試飲の旅も気兼ねなし。「ゆ（湯）ったり」オリジナルの旅が楽しめる。

新型コロナウィルスにより、「旅」が遠くなってしまいましたが「ご近所の日本旅・道府県事務所」を巡り、旅をイメージすることで「新しい一歩」を、ご一緒に踏み出したいと考えています。

「通年・定期」では世界唯一とされる英国本土とワイト島間のホバークラフト 出典：https://response.jp/article/2020/03/08/332412.html

「つながりの風景」マイタウンを行く　肥える情報発信

「お住まいはどこ？」と聞かれ、「北区です」と答えると「良いところに住んではりますね」と、ほとんどの人がこう返します。たぶんみんなが想像する北区と私が住んでいる中津はちょっと違うような気がします。

北区でも淀川に近い中津は、戦災を免れた昔ながらの長屋と細い「路地（ろーじ）」が多く残る町。同じように道が細く古い建物が残るお隣の中崎町も雰囲気は似ていますが、中津は表通りに看板を出すお店が少ないのが特徴です。

すべての人がそうではないでしょうが、無目的に「ぶらぶらまち歩き」をしたくなるのが中崎町で、明確な目的があって「訪ねる」のが中津のようです。だから、中津は「用事がないと来ない町」だし、お店情報なんかも直接聞ける昔ながらの人のつながりが強い町です。

立て看板が少ないだけで町の時間がゆっくりに感じる「ここだけ時間」も不思議です。周辺の開発から取りこぼされた町ですが、それ以上に「良い意味で都会の中の田舎」です。

この「ゆるさ」は、梅田貨物線と淀川に囲まれたエリアで強く感じますが、地下鉄・中津駅周辺はまったく違います。同じ中津でも貨物線を挟んで雰囲気はガラッと変わります。

ところが、ゆっくりとした時間が流れる「この町」にも危機がやってきました。想像していた再開発の波ではなく、新型コロナの影響です。小さなコミュニティのつながりで成り立っていたこの町に感染拡大による外出自粛の波が押し寄せ、人のつながりが分断され、人の姿が消えました。

特に影響が大きかったのが飲食店。もともとごく小規模で、それゆえ「絶妙なバランス」だったのが一気に崩れました。そんな町の状況を見て何かできることはないかと始めたのが「中津の町の飲食店のテイクアウト情報の発信」でした。町じゅうを自転車で走り、営業をしているほぼすべてのお店の動画を撮影！　YouTube にアップしました。すると瞬く間に再生回数が伸び、今では数千を超えました。たくさんのコメントもいただきました。

「行列は困る」と内緒にしていたお店ですが、お客さんの数が減り「やめはったら困る」と、逆に積極的に宣伝しました。

日常の移ろいは多様ですが「つながりの風景」は大切にしたい。そんな気持ちでマイタウンを紹介してゆきます。

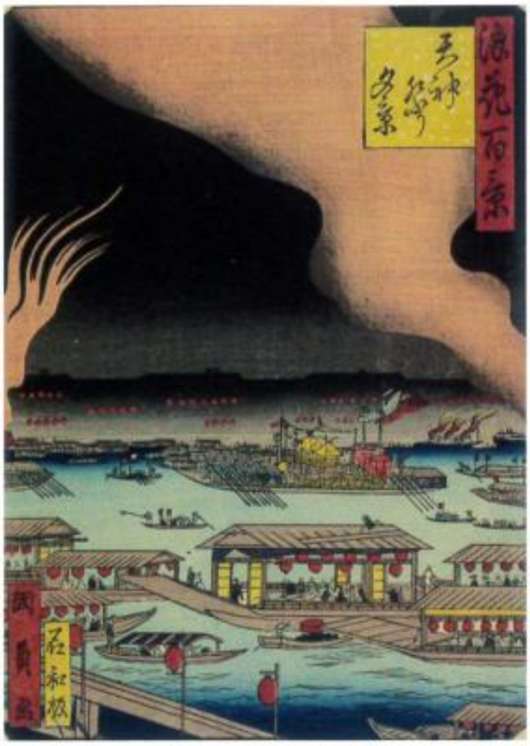
■平井 裕三：都心の田舎のユーチューバー

より便利に、より身近に、センターをご利用いただけるようになります！

今年度より、両センターでは新サービスの開始を予定しております。まず、7 月下旬より『インターネット予約受付』を開始いたします。事前に所定の手続きを行っていただく必要がありますので、7 月上旬以降に窓口へお越しください。今後、6 ヶ月後の応当日の抽選もインターネットから参加可能になる予定です。また、8 月以降より、コンビニエンスストアでの収納代行サービスの開始を予定しております。遠方にお住まいの場合や、ゆうちょ銀行がお近くにない場合でも、最寄りのコンビニエンスストアでご利用いただけるサービスです。時期は未定ですが、北区民センターでは、フリーWi-Fi の導入も予定しております。今後とも、2 つのセンターをどうぞよろしくお願いいたします。

浪花百景歳時記　ジキジンゴンゴンのお囃子が響く
「天神祭り夕景」一珠斎国員(くにかず)

『浪花百景』は、大坂の歌川派の浮世絵師、一珠斎国員（生没年不詳）、南粋亭芳雪（1835～1879）、一養斎芳瀧（1841～1899）の三人が手がけた百枚そろいの中判組み物の錦絵である。制作年代は明治直前の文久・元治・慶応年間と思われ、現在の大阪市中央区平野町にあった板元の石川屋和助から刊行された。画面左下に「石和板」とあるのは、石川屋和助の板（出版）であることの略称である。



歳時記でいえば、七月は大阪の祭りの月であり、市内各所で夏祭りが催される。とりわけ七月二四日、二五日の天神祭が盛大であり、『浪花百景』にも各地の祭礼が描かれているが、天神祭を描いた作品に「天満天神地車宮入」「天神祭り夕景」「戎島天満宮御旅所」がある。

しかし現在、感染症の流行により神事は執り行われるが、一般の参詣や露天などは制限され、規模が縮小されている。今回は、せめて華やかな錦絵に江戸時代の船渡御をしのんでみたい。

絵は日の落ちたばかりの夕景に、御神輿を中心に船団が進む情景を描く。左端に焔がたちのぼるのは篝火船があるのだろう。作品は『摂津名所図会』の挿絵を参考に描かれたと思われ、とするならば左下の欄干は堂島川にかかる大江橋か渡邊橋だろう。菅原道真公の御霊がお通りになるとき橋は通行止めになっていた。対岸にも提灯が連なる。堂島の米相場あたりだろうか。

むこう側の二基の神輿を乗せた船は多くの漕ぎ手がのり、戎島の御旅所へと目指しているが、面白いのは、画面中央に大きく描かれた船や、その周囲の提灯を吊りさげた船である。これらは川岸近くに停泊した屋形船で、机を囲んで乗客も宴会を開き、涼しい川風にあたりながら一杯きげんで船渡御を観覧している。

屋根に乗る男は、プカプカ浮かんだ船同士がぶつからないよう監視している船頭なのだろう。船には給仕の仲居さんらしき女性も描かれているし、手前には小舟一杯にスイカを積み込んだ西瓜船もある。当時の北浜や中之島には料亭もあり、そこからも船渡御を見ることができただろう。

一時、大阪大学も「阪大船」を出して船渡御に参加していた。頭上で開いた花火は大迫力だったが、出航待ちが暑かった。私のような不精者は冷房の効いた屋形船で浮かんでいるのが好みである。長い間コロナで自宅にこもっているせいもあるが、「天神祭り夕景」のこの船が懐かしくもあり、なんだかうらやましい（次回、浪花百景歳時記に続く）。

■橋爪 節也：大阪大学教授 総合学術博物館（前館長）／大学院文学研究科 兼任

中央公会堂にて

「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」

▽コミュニティの「つながり」から「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」という企画を考えています▽新しい物語を共有し、絵本になるかも？の夢を紡ぐ企画です▽会場は大淀コミュニティセンター10/17（日）開催予定です▽詳細は同センター、北区民センター、北区役所などにあるチラシを参照してください▽抽選でご招待いたします。

編集後記

『キタのまちのニュースレター』No.1 をお読みいただき、ありがとうございました。今、皆さまのお手元に『ニュースレター』が届いていることをうれしく思っています。さて、北区民センターでは、新型コロナウィルスのワクチン接種が進んでいます。今年も地域の行事が相次いで中止となっていますが、来年こそ元に戻るよう願いたいです。

＜キタのまちのニュースレター　No.2＞

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

キタのまちのニュースレター

No.2 | 2021 秋-冬号

2020年11月21日／会場・北区民センター：フォーラム「[illegible]町マナビバ」におけるフラセッション

Interview

北区で集うフラ

高田富子　ハラウ フラ オ メハナ・フラダンス講習会　講師

ハワイの民族舞踊であるフラは日本でも親しまれていますが、今回はその魅力について探っていこうと思います。大淀コミュニティセンターでは毎週金曜の朝にフラダンス講習会が行われており、講師はフラ教室〝ハラウ フラ オ メハナ〞のインストラクターである高田富子さんが務められています。受講されている方を見てみると地域のさまざまな年代の方が通われています。その理由はなんでしょう？

高田さん「フラは年齢、性別に関係なく一緒に楽しめます。もちろん年齢にあった踊りがあり、子供は子供らしく、体力のある若者は腰を落としてしなやかに。年齢を重ねた方はその経験に基づいた豊かな表現力が必要とされるんです。ハワイの人々は歳を重ねた人を『知恵を授けてくれるとても大切な人』と敬意を込めて〝クプナ〞と呼びます。多世代の方とのおつきあいはお互いに学びあえていいことだと思います。それにフラは全身を使うので体幹も鍛えられて、健康にもとてもいいんです」

自分が重ねた経験を踊りで表現できるというのは魅力的です。それは今の自分を見つめ直すきっかけにもなるのではないでしょうか？

高田さん「私はとあるダンサーのショーを見たのがきっかけでフラを始めたのですが、その方からあるメッセージを受け取ったような感覚になり思わず涙があふれてしまいました。『Hula is Life』（フラは人生そのものである）という言葉がありますが、フラは人柄や生活が踊りに表れると思うんです。素敵なフラを踊るためにも毎日を大切に丁寧に暮らそうと心がけています」

そして今、高田さんは来年3月に『マナビバ フラ カンファレンス』という〝フラでつながるコミュニティイベント〞を企画されています。そこではより詳しく気軽にフラの世界を楽しむワークショップやステージを計画しているとか？

高田さん「フラは歌詞の内容を手話のように伝える踊りなので、色々なことをイメージすることにより想像力がとても豊かになります。また身の回りの小さな発見にも感動するようになり、そのことを仲間でシェアしあえることはとても幸せなことだと思います。それがみなさんのコミュニティの場になればより嬉しいです。歌はハワイ語ですが、言葉の意味がわからなくてもダンサーの表情から何を伝えようとしているかを感じ取っていただければいいなと思います」

古代のハワイには文字がなく、豊かな自然に囲まれながらその自然を神と崇め暮らしていました。自然に対する感謝や祈りを伝える手段としてフラが広がっていったと言われていますが？

高田さん「コロナ禍で触れ合うことを『控える』ことが増えました。そこで、自分の感情や思ったことを別の『言葉』として語りあうフラをおすすめします。ぜひいかがでしょうか！」

「フラ」を楽しむマナビバ情報

▲お聞きした高田富子さん（右写真）を中心に「フラでつながるコミュニティ」をテーマに『マナビバ フラ カンファレンス』計画中！▲日程は来年3/12（土）・13（日）の2日間。会場は北区民センターで「子どもも大人も楽しめ」「フラとともにモノづくり体験」「意外なコラボ」も▲フレンドリーで情熱家の高田さんが丹精込め計画中の「フラでつながるコミュニティ」……今から楽しみです▲詳細は来年1月末頃に北区民センターのホームページ等でご案内します。

地域の魅力再発見

なんと支流の数965！日本一の淀川・最北の源へ

福田 知弘
大阪大学大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 准教授
NPO法人 もうひとつの旅クラブ 理事

北区を流れる淀川と大川。そもそも、どこから流れはじめているのでしょうか？

同じ流域内にある河川、湖、沼などを含めて「水系」と呼びます。淀川と大川は大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、三重の2府4県にまたがる「淀川水系」です。淀川水系は「淀川三川」と呼ばれる桂川、宇治川、木津川の他、琵琶湖と琵琶湖に流入する河川が含まれ、淀川全体の支流の数はなんと965本、「日本一！」つまり、淀川は、それらのたくさんの源や地域とともにあります。今回は、その最北、淀川の源へとご案内します。

琵琶湖の北、JR木ノ本駅から余呉バスに乗りかえ中河内へ。出発すると田園風景がすぐにはじまり、余呉を過ぎると山あいの道に入ります。バスに揺られ、椿坂峠を越えると終点の中河内に着きました。この集落はかつて、北国街道の宿場町として「（福井県の）今庄朝立ち　木之本泊まり　中河内で昼弁当」と詠われ、旅人にとって重要でした。全国でも屈指の豪雪地帯です。

北国街道を歩き中河内集落から「淀川の源」、高時川の碑へ（下写真）。カエルの大合唱が谷間にこだましていました。この先に集落はもうなさそう、50分ほどのハイキングです。

石碑の裏には「河川の恵みに感謝して」と刻まれています。この地点から淀川の河口まで地図で測ると直線で131kmもありました。ここに降った雨水が土にしみ込み、やがて高時川として流れ、淀川に届くのでしょう。石碑からさらに少し歩くと栃ノ木峠、滋賀県と福井県の県境です。分水嶺でもあり、橋の下を流れる孫谷川は日本海へと流れます。

笹舟を浮かべました。地域を見届け大阪湾まで運よくたどり着けたとすると、いつのころになるのでしょうか。琵琶湖の北で大阪・北区の起源に触れた不思議な気分になり、地域のつながりを再発見しました。コロナが収束したらまた訪ねたい「源への旅」でした。

北区に出会った気分？高時川の「淀川の源」の碑。

ツキイチ屋台から

『まちづくり』って？

岸上 純子
建築家・ツキイチ屋台女将

なかなかコロナ以前のような日常が戻って来そうにありませんが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？「ツキイチ屋台」もコロナの影響でここ最近全く開催できずです……。

いまどきの日常・都心の公園
「ある週末の風景」

そんな中、いくつかの『まちづくり』についての取材を受けました。

『まちづくり』と言ってもその捉え方は多様で、私自身『まちづくり』っていったいなんなのだろう？ 私のやっていることは『まちづくり』と言っていいのか？ と自問自答することが多いです。

みなさんにとって『まちづくり』という言葉の持つイメージはどんなものでしょうか？

大きなものでは、都市計画？ 再開発？……なんだか大きすぎて個人の範疇ではなさそうですよね。

小さいものでは、自治会？ 町内会？……なんだか大変そう……それって役所の人とか役員さんがやることでしょ？っていうイメージの人も多いんじゃないでしょうか。

ちょっとでも『まちづくり』に興味のある人は、「まちを魅力的にするためにイベントしたりすること」っていうイメージでしょうか。確かにどれも正解です。

でも、やっぱりどうしても『まちづくり』って大変そうなイメージがあると思うんです。

しかし、『まちづくり』についての取材の中心は『身近なまちや生活に興味を持つきっかけとなるもの』だった気がします。『身近な』というところが大切で、コロナ禍で、より『身近な』ものが大切になってきてるんじゃないんでしょうか。

最近よく目にする風景は『まちの余白を使って余暇を上手に過ごす人たち』です。これこそ『まちづくり』だ！ と、私は思いました。

『まちづくり』の本質は『まちの魅力づくり』だと思います。そこに人がいなければ、魅力的とは言えません。もちろん「その場」自体をつくるのも『まちづくり』ですが、そこを『楽しく使う』ことも『まちづくり』だ！ と思ったんです。

私の『ツキイチ屋台』も私だけが『まちづくり』をやっているわけではなく、来てくださるみんなも『まちづくり』をしてくれているんだ！ と!!

そう思うと『まちづくり』って身近になってきませんか？

さぁ！ みなさんも身近な場所に目を向けて、一緒に『まちづくり』しませんか？

キタ歩き日本旅

長崎県の巻

日本47都道府県中、北区の「大阪駅前ビル」には、その約半数にもおよぶ道府県事務所が立地しています。
それはまるで、ご近所から「旅」の趣です。そこで「キタ歩き日本旅」と題して各県をご紹介します。お楽しみください。

ハイセンスな「かもめ」のデザイン。洗練された車内も楽しみです。

大阪駅前ビルの道府県事務所を巡り全国を旅する第2回目は長崎県大阪事務所です。長崎県は自然の恵と祈りの歴史が解けあった、島と半島のロケーションが魅力です。同事務所の水谷大吉さんにお聞きしました。

──世界遺産に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「明治日本の産業革命遺産」があります。大阪の方は、日本二十六聖人記念館に注目です。太閤さん（豊臣秀吉）との歴史が壮絶で、展示物の厚みに息をのみ、立ちすくみ、「時代」の事実に圧倒されます。

──生活文化では江戸期の「くらわんか茶碗」です。当時、日常陶器が大阪弁で全国展開されました。生産は波佐見の窯が独占しました。現在はアート性豊かなデザイン陶器が有名で観光地としても大人気です。

──長崎は「島の魅力」も格別です。数々の魅力がありますが「ビーチの魅力」では、五島・高浜の美しさに驚嘆します。延々と遠浅で正真正銘のエメラルドビーチ！　本当に驚きます!!

「味の魅力」はいかがですか？と、問えば……

──山海の恵みに事欠きません。とにかく素材が素晴らしい。それはそれとして、郷土料理にも注目です。島と半島の地形的な事情から、オリジナル性の高い郷土料理が受け継がれています。卓袱料理はその代表格ですが島原の具雑煮、大村の大村寿司、五島の手延べうどん、対馬の石焼き、松浦のアジフライ、東彼杵のくじら料理、等々……若者には「佐世保バーガー」。

旅のトピックは？

──来年秋頃、西九州新幹線が開業予定です。武雄温泉～長崎間に新幹線が走り、博多には武雄温泉で在来特急との「対面乗り換方式」でつながります。……ということで、その新幹線が走る諫早駅の駅長・山口哲矢さんにもお聞きしました……

「新大村や諫早をキーに島原方面など、長崎の新しい周遊観光が楽しみです。オシャレな『かもめ』の車両デザインも発表されました！」との弁。

未知の魅力に惹き寄せられて、「わたしだけの長崎の旅」をプランしてみたくなりました。ありがとうございました！

長崎県大阪事務所／北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第一ビル8階　☎06(6341)0012　〈開館状況は電話またはHPで事前にご確認ください〉

浪花百景歳時記

浪花百景ピクニック

「十三中道」南粋亭芳雪

行楽の秋だがコロナのご時世、遠方への旅行はためらわれる。せめて錦絵に幕末のピクニック気分を楽しむことにしよう。取り上げた作品は、虹の架かる田園を男女が仲良く歩いている。「十三中道」は阪急十三駅付近かと思われるが、東大阪から奈良へとつながる「十三街道」とする異説もある。それを紹介するので、郷土史家・大村寿郎さんの歴史を巡る知的なピクニックをお楽しみください。

大阪大学教授 **橋爪節也**

研究ノート

郷土史家 **大村寿郎**（北区在住）

昔・今・未来はひとつながり。また、「今だけ」にひかれすぎ「その場所だけ」を見ていては、逆にこぼれ落ちる魅力もある。そんな理由から浪花百景に注目し、現在の「北区域に接する場所」から北区の「わが町」を楽しんでいる。

ある発見をした。浪花百景「十三中道」（上の絵）は、現在の北区あたりから渡る「十三の渡し」の北の風景とされてきた。が、「どうもおかしい」ということに気付いた。何故か？ そもそも当時の歳時記的風景に欠かせない「十三の渡し」が描かれていない。旨いもんの地域代表「十三の焼餅」も絵にない。歳時記的に検証すれば「辻褄があわない」というわけだ。

では、いったいどこの風景か？「月瀬尾山 梅渓道の栞」（左下・出典図絵を一部拡大）には、天満橋から玉造・深江を抜ける十三街道が描かれている。付近には遊所の誉れ「中道村」があった。調べると、この情景は当時の中道村、現在の東成区中道付近と推察される。歴史・文化を調べると発見があり、未来にも出会う。このカップルが、江戸末期、現在の北区の川向うから「キタ」に来て、キタのまちも楽しみつつ（まったくの空想だが）ピクニック……男の手に瓢箪徳利が確認できる。中身は水、お酒、さてどっち？……十三街道を中道まで来たのでは、と。

当時のピクニックを思い描くと、現在を通り越し「観光の未来」も見えてくる。アフターコロナの「オオサカ観光」とは一体どのようなものか？ 小さな船旅、キタのまち、「天マ（天満）」を抜けて街道をゆく……。未来に幸多かれと願うばかりだ。

編集後記

本紙の編集では知らないことばかりに出会い、戸惑うこともあります。それはこのニュースレターに多様性があるからだと思います。だからこそ本紙が誰に、どのように興味を持ってもらえるのか期待と緊張が入り混じった思いで編集しております。もしこの記事が良かった等の感想がございましたら、窓口にお声がけください。職員が喜びます。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発　行　月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター　〒530-8401 大阪市北区扇町21-27　kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター　〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2　oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

キタのまちのニュースレター

No.3 2022 冬-春号

落語×アートの祭典スタート！

大淀コミュニティセンターで「落語とビジュアルアートのアニュアーレ」という、若手噺家とアートを学ぶ学生が創作落語からオリジナル絵本が誕生する夢を追いかける新しい試みが行われました。その様子をご紹介いたします。

※写真は当日の若手落語家８人の熱演

大淀コミュニティセンターを異なる文化が出会う拠点にしたい。このイベントはそんな想いから生まれました。それぞれの創作界を担う若者が出会い、刺激しあうことで、つながりを生み出そうというものです。

８人の若手落語家が、テーマとなる3つのお題をくじ引きで決定し、一見バラバラなジャンルのテーマを組み合わせて、ひとつの噺として完成させる「三題噺（さんだいばなし）」の創作に挑みました。この「三題噺」は、今回の試みのために創作された新作の落語です。そして、落語を体験したアートを学ぶ学生やデザイン系の仕事に従事する若者が、その落語から着想を得て「1枚の絵」を描きます。最終的にはどちらの作品からも優秀作が選ばれ、絵本化へとつながっていきます。

ちなみに「アニュアーレ」とは【年に1回】を意味しており、この「新しい落語から新しい絵本を」という夢を追求する「落語×アートの祭典」を大淀コミュニティセンターで、これから先も年に1回開催します。

イベント当日には約80人の観客が集まりました。客席はさまざまな年代の方がおり、半分は絵を学ぶ若い学生たちでした。もともと大淀コミュニティセンターや北区民センターには、幅広い年代の方が来館されます。しかし、このような形で一同に会するということは珍しく、このイベントならではの光景と言えるでしょう。

披露された落語はどれも、若手落語家たちの個性を活かしており、中にはおとぎ話のような世界観もありました。会場が笑いに包まれる中で、この落語がどんな絵になるのだろうと想像する楽しみもあります。こうした期待があるのも異なる分野のコラボレーションが実現したからです。

もともと大淀コミュニティセンターではいろいろなジャンルの方が活動されています。その中で他分野にも興味をもつキッカケができれば、地域の人々のつながりができるのではないかと考え、本イベントの開催に至りました。交流の幅を広げていくことで、自身の創作をさらに飛躍させることができるのではないでしょうか。

イベントのチラシに使用された作品
Made by Yori

アニュアーレ情報

写真の8名が出演し『繁昌亭アニュアーレ』を2/19（土）開催します。会場は天満天神繁昌亭。『大淀アニュアーレ』から、進化した創作落語が披露され、落語から着想を得て「絵本の夢」を追う「一枚の絵」入選作も展示します。詳しくは大淀コミュニティセンター・北区民センターでチラシをご確認ください。次のQRコードでも確認できます。 ▶アニュアーレ広報HP https://annuale.net/

COLUMN

扇町マナビバの試み

浪花百景で学ぶ大阪のまち

キタのまちのニュースレター編集室

「浪花百景」は、江戸後期の大坂のまちの様子を、その当時の生活スタイルとともにうかがい知ることができる図版集です。

「浪花百景」それぞれの図絵は、現在の大阪都心部にあたる場所を中心に描かれており、風景だけではなく、闊達で華やかな「天下の台所」と表現された、当時の文化や日常、観光習俗なども読み取ることが可能です。それらはまるで最先端の"フォトブック"のようなリアルな情報に満ち溢れています。

このニュースレターでは、大阪大学の橋爪節也先生に主筆をお願いし、これらの図絵にプラスして、大坂（および大阪）の季節感とともに浪花百景を紹介していただいています。（毎号4ページに「浪花百景歳時記」として連載）

その橋爪先生からこんな提案を受けました。……それぞれの「百景」を拡大し完成度の高いタペストリーに仕立て、それを「町並み」のように並べ、あたかも「まち歩き」しているように楽しむことができる「展示」はできませんか？

この投げかけに北区民センター・大淀コミュニティセンターのスタッフが協議し、まちづくり系のNPOなども協力、まず「20景」が完成しました。昨年11月にはスタッフが集まって、北区民センターで展示の予行演習を行いました。不安もありましたが、タペストリーの完成度は高く、様々な角度から楽しむことができ、それらをつなぎ合わせて展示することで（ちょっと大げさですが）幕末の町並みが出現したような感覚を覚えました。

このタペストリーを、3/12（土）13（日）の両日「扇町マナビバ・なにわ百景⇔未来景」というイベントで初お披露目いたします。12日・土曜日13時～15時には、橋爪節也先生のワークショップも計画中です。

この両日は、フラと環境をテーマにした「マナビバ フラカンファレンス」という催しも同時開催される予定で、この二日間、北区民センターは楽しい「マナビバ」として皆様をお待ちしています。【両イベントとも参加費無料／スケジュール詳細は北区民センターHPにアップします】

※新型コロナウイルスの感染状況によりスケジュールが変更になる場合があります。必ず、北区民センターHPを事前にご確認ください。

ツキイチ屋台から

まちを楽しく使う

建築家・ツキイチ屋台女将　岸上 純子

やっと日常が戻りつつある今日この頃ですが、みなさん日常のありがたみをひしひしと感じておられるのではないでしょうか？　私はそうです。

SNSからは各地で行われているたくさんのイベントの様子が流れてきて、本当にこのままコロナ前の日常が戻ってくることを切に願うばかりです。

コロナの影響なのか分かりませんが、最近本当に多くの屋外イベントを目にします。屋外の公共空間で行われるマルシェや音楽会などです。それらの光景は本当に楽しそうで賑わいがあって、『屋外空間ってこんなに楽しく使えるんだな!』って思わされます。また、このようなイベントが多くなったからか、人々の屋外での過ごし方もうまくなったように感じます。みなさんの中にも、ここ数年の間に余暇を屋外で過ごすことが増えた人も多いのではないでしょうか。

今回は、そんなみなさんにも、また、まだ屋外で余暇を過ごしたことのない人にも、「こんなまちの楽しみ方があるんだ!」ということを知っていただければと思っています。

前回、まちや場を『楽しく使う』ことも『まちづくり』なのではないかという話をしました。でも、どんな場所をどうやって使ったらいいんだろう？　と思いますよね？　そんな疑問に答えてくれる一冊の本があります。

笹尾和宏さんの書かれた「私的に自由にまちを使う―PUBLIC HACK」という本です。タイトルの通り、まち（公共空間）を自由に使っている事例や、自由に使える場所を探すヒントがたくさん書かれています。これを読んでいると、「あ、あの場所って使っていい（自由に使える）場所だったんだ!」と気づかされ、まちを歩くことが楽しくなります。

実際に私自身、笹尾さんのPUBLIC HACKを一緒に体験したのですが、印象的だったのは、それ自体がとても『パブリック』だったことです。どういうことかというと、公共の場を「個人」で使うのではなく、いつでも知らない人も入って来れるような、というか入って来たくなるような場になっているのです。その理由は通りがかる人が「いいな～」と思うこと!　だと感じました。なんだかちょっとだけちゃんと用意されている場。缶ビールと紙皿じゃなくて、ガラスのグラスとオシャレなトレーが明らかに人数分以上にあったり。それだけで、なんだか「内輪感」がなくなりパブリックに感じるんだと。

みなさんもパブリックな場をパブリックに使うことをやってみませんか？

キタ歩き日本旅 沖縄県の巻

大阪駅前ビルの中には、47都道府県のうち約半数もの道府県事務所が立地しています。それはまるで、ご近所から「旅」の趣です。
ここでは北区にいながら日本中の魅力を発見できる道府県事務所の魅力をご紹介。ぜひ体験してください。

復元が待たれる「首里城・正殿」の美しい姿

わしたショップリンクスウメダ店

わした大阪天神橋筋店

2000年にユネスコ世界遺産に登録された「琉球大国のグスク及び関連遺産群」は、琉球王国時代の城（グスク跡）、形式美に抱かれた王家の陵墓、王家別邸だった琉球様式の庭園、海の彼方の理想郷「ニライカナイ」を望む御嶽（ウタキ：祈りの場）から構成され、本島全域に分布する９箇所の大スケール世界遺産群です（本島面積・約1,200㎢／参考・大阪府面積・約1,900㎢、市面積223㎢）。

なかでも「グスク」は、本土の「お城」とはまったくことなる城郭造形が特徴で、美しい「それぞれのグスク」が南北に点在しています。沖縄県大阪事務所の大城史晃さんにお話をお聞きしました。

グスクの中でも、沖縄の心のよりどころ首里城は特別な存在です。ところが、令和元年10月31日未明、首里城火災が発生し正殿（本土のお城の天守閣にあたる建物）を始めとする９施設が消失してしまいました。今現在は「首里城復興」に向け工事が進みつつあります。

この復元には、世界遺産であることから部材の隅々にまで慎重な手立てが講じられることが求められ、年数が必要です。そこで、この過程を共有していただけるよう安全には万全の体制を払いながら「首里城復興モデルコース」という、特別なガイドツアーが企画されるようになりました（現在、５コースの設定）。

この段階的公開とともに、首里城のシンボルでもある赤瓦を再生利用するために「赤瓦漆喰はがしボランティア活動」や様々な復興関連イベントも企画しています。

那覇空港から首里駅までは「ゆいレール（モノレール）」を利用し乗換なしで28分・340円。首里駅から首里城入り口にあたる「守礼門」までは歩いて20〜25分です。首里の町並みはとても風情があるので「歩いて」がオススメですが、タクシー利用でもワンメーター約５分（600円ほど）のアクセスです。

２月から３月にかけては、プロ野球やサッカーチームの「沖縄キャンプ」でリゾート地が人気です。その前後、那覇空港到着日・出発日いずれかの半日、空港アクセスが確実な「ゆいレール」に乗り那覇市街を眺望しながら、沖縄の心を体感できる『首里城の旅・半日コース』はおすすめです。

そういえば……北区には沖縄名産の名店「わしたショップ」がリンクス梅田と「天４」商店街にある。大阪には「沖縄の味」を楽しめる名店も数多い。まずは大阪で沖縄のリアルに触れ、旅の計画を練ってみたいと思います！

写真提供：沖縄県大阪事務所／北区梅田1-1-3-2100 大阪駅前第３ビル21階 ☎06-6344-6828（開館状況は電話またはHPで事前にご確認ください）

浪花百景歳時記

初夏の田んぼにアーチの橋!?

大阪大学総合学術博物館　研究支援推進員　波瀬山祥子

「鬼子母神」歌川国員 画

舞台は阪急梅田駅から茶屋町方面へ歩き新御堂筋を東へ渡ったところ、梅田ゲートタワーなどがある大阪市北区の鶴野町。かつてここは南浜村と呼ばれ、「鬼子母神」の愛称で親しまれた安産・子安の神様を祀る「経王山慶住院」がありました。昭和50年代に高槻市の摂津峡へ移転していますが、江戸時代は、遠近から参拝者がしきりに訪れたくさんの供物がお堂の前に並び、近くには茶店もできるなど大変な賑わいをみせていたそうです。

鬼子母神とは、もともと仏教が誕生する前からインドで信仰されていた神様で「訶梨帝母」とも呼ばれます。伝説によるとたくさんの子を産む一方で性格は邪悪で常に他人の子を取って食べ人々から恐れられていましたが、仏の導きによって過去の行いを悔い改め、安産・子育の神となることを誓い仏教の守護神となりました。

この絵を見てわかる通り、かつては今の都市景観からは想像もつかないほど牧歌的な景色が広がっていました。水を張った田んぼには空の青が映えて清々しく、田植えが始まる初夏の頃を思わせます。苗がこれから成長するように、こどもが無事に成長することを願ってこの季節が選ばれたのか、と私は想像します。

大坂の名所案内記『浪華の賑ひ』(安政2年・1855刊行)に載る図をもとにこの絵は描かれていますが、画家は、本書で見られた門前の茶屋や多くの参詣者を省略しすっきりとした構図に変え、アルファベットの「Z」のように手前から奥にかけて男女の参詣者を連ねて描き、お寺の方へと鑑賞者の視線を誘います。画面左側には、幼い子どもを連れて歩く女性のすぐ先に振り返る男性の姿があり、親子なのだろうと想像させます。家族の楽しげな会話が聞こえてきそうです。

この畦道はお寺へ続く参詣道なのですが、おもしろいのは田んぼの真ん中にアーチ状の小さな橋が架けられていることです。用水路を跨ぐために架けられているのかもしれませんが、わざわざこの形にしているのは、例えば住吉大社の入り口にある反橋と同じように、その先が神聖な場所であることを示す「太鼓橋」を意味しているのかもしれません。

編集後記

今回は創作や表現がメインの記事になりました。北区の会館では絵画や習字、詩吟、踊り、演劇、音楽など、多様なクリエイティブに携わる方が来館されます。本誌ではそんな方々の活動を広めていき、地域の人々が自分に合う表現を見つけられる場所になれればと思います。ちなみに私は料理にハマっているのですが、これもクリエイティブでしょうか……？

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発　行　月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター　〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター　〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

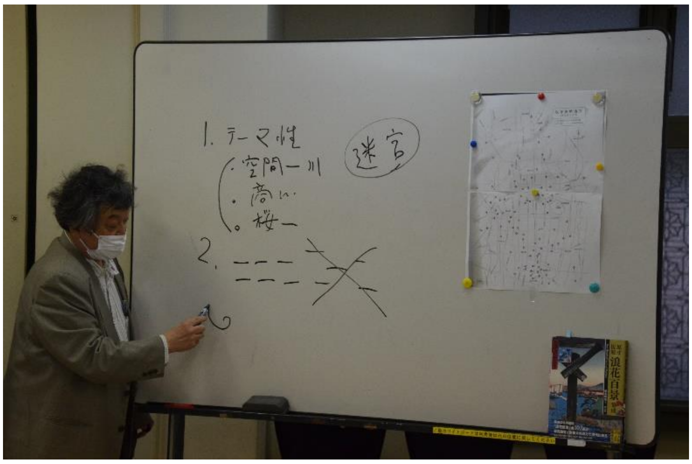
1.事業名	扇町マナビバ　マナビバ・フラ・カンファレンス＜環境循環型コミュニティを表現し楽しむ＞
2.事業内容	大淀コミュニティセンターで毎週金曜に行われているフラダンス講習会。講師はフラ教室”ハラウ　フラ　オ　メハナ”のインストラクター高田富子さん。 高田さんは、「フラは年齢、性別に関係なく一緒に楽しめます。年齢にあった踊りがあり、子供は子供らしく、体力のある若者は腰を落としてしなやかに。それにフラは全身を使うので体幹も鍛えられて、健康にもとてもいいんです。自分が重ねた経験を踊りで表現できるというのは魅力的です。」と語ります。 そこで、“フラでつながるコミュニティイベント”を実施。そこで、気軽にフラの世界を楽しむワークショップやステージを開催しました。
3.実施日 実施場所	〇令和 4 年 3 月 12 日（土）　フラダンス：北区民センター　ホール ストローレイのシュシュ作り：北区民センター　第3会議室 〇令和 4 年 3 月 13 日（日）　フラダンス：北区民センター　ホール
4.来場人数	延べ約 300 名
5.出演	・ハーラウ　オ　リリノエ/・ハラウ　フラ　オ　カモク　オピオ　オカラニ ・ハラウ　フラ　オ　メハナ
6.次年度の 展望	チラシやポスターを作成・配布し、地域住民への周知告知を実施して事業を広めます。 今年度実施したワークショップのハワイアンアクセサリー「シュシュ」作りが親子に人気があり、当日参加もあったため、事前予約・参加人数を増やすなどを考慮します。 また、フラを見るだけではなく、参加者を募集し、「フラ体験」を実施。フラの楽しさを体感してもらうワークショップを検討。「見る楽しさ」から「体験・体感する楽しさ」のある事業を実施し、「新しいつながりの場」を提供します。

添付資料⑥　当日写真

＜ストローレイのシュシュ作り（3 月 12 日＠北区民センター　第 3 会議室＞

＜マナビバ･フラ･カンファレンス（3 月 12 日、13 日＠北区民センター　ホール）＞

1.事業名	浪速百景展示・講演会＜大公園の次世代を考える「扇町マナビバ」フォーラム事業＞
2.事業内容	大阪の昔の風景を描いた「浪速百景」20点(景)を大判タペストリーにし、今と昔の大阪を図版で実感。 橋爪節也大阪大学院文学研究科教授による講演会も開催しました。
3.実施日 実施場所	○令和 4 年 3 月 12 日(土) 北区民センター 第1・第2会議室 ○令和 4 年 3 月 13 日(日) 北区民センター ロビー
4.来場人数	延べ約 50 名
5.協力	・NPO 法人もうひとつの旅クラブ ・大阪大学教授 橋爪節也氏
6.次年度の 展望	江戸後期の大坂を描いた図版集「浪花百景」の原画(100枚の風景錦絵)を、高精度で大判のタペストリーに施し毎年度ごとに20点(景)程度追加して「企画展示」を実施します。幕末の大坂の町の様子や庶民の姿が生き生きと描かれ、後年の開発と戦災で姿を消した川や橋も多数見られる図版を、来年度は20点(景)を追加。大淀コミュニティセンターでの「文化のつどい」と併催し計40点(景)を展示。大阪の今昔を知るきっかけの一環とし江戸時代の「古き良き大坂」にタイムスリップしてもらいながら、商都浪花の賑わいとそこで暮らす市井の人々の営みを一瞬の「景」でとらえた『浪花百景』の世界を読み解き、見る人が『今のまちに求められる視点』を検証もらえる糧にしてもらいます。

添付資料⑦ 当日写真

＜浪速百景展示・講演会(3 月 12 日、13 日@北区民センター＞